

平成 30 年度 中教研養護部会のあゆみ

徳島県中教研養護部会副会長 滝川 つぼみ

近年、子どもの健康課題は多岐にわたり、課題解決のためには子どもを取り巻く様々な人との連携は欠かせません。たとえば、学校で健康教育を進めようとしたとき、養護教諭の思いと担任教諭の意識がずれていると、指導効果は期待できないこととなります。それでは、どうすれば望ましい協働になるのでしょうか。養護教諭が専門職として把握している健康課題に関する適切な情報を提示することが第一歩ではないかと考えています。子どもの健康課題を共有し、子どものために何ができるかを共に考えようとしたときに、協働の力が働くようになるのではないのでしょうか。教諭の健康に関する意識が高まると、毎日学級での指導に生かされます。教諭が主体的に健康教育を推進してくれるようになる、これも私たち養護教諭のめざすところではないのでしょうか。

本年度も研究主題は、「心と体の健康をはぐくみ、たくましく生きる生徒の育成をめざして」とし、研修を進めてきました。

● 5月 21 日（月）中教研理事会（工業技術センター）

平成 29 年度の事業報告と会計報告、平成 30 年度の事業計画案、予算案、研修計画、養護教諭協会総会、県・四国総体救護等について協議しました。

● 5月 29 日（火）中教研養護部会総会

（徳島県総合教育センター）

前年度の事業報告、決算報告等理事会で協議された内容について全ての原案が承認されました。本年度より新しく、会長に鳴門市第二中学校の横田勝校長先生をお迎えし、会員 85 名のスタートとなりました。

● 7月 7 日（土）～25 日（水） 県総体救護

● 8月 4 日（土）～9 日（木） 四国総体救護

● 7月 24 日（火） 夏季養護教諭研究大会

（あわぎんホール）

美馬市・美馬郡中学校養護部会共同研究で協町中学校の前原徳先生が「生徒が主体的に学ぶ保健教育－生活習慣の課題からつながるがん教育－」と題して研究発表されました。生徒の健康課題や健康に関する興味関心を踏

まえ、学ぶ意欲を高める取組や、生徒が主体的に学ぶことのできる授業展開の工夫について発表されました。そして、「がん教育総合支援事業」における取組は、がんに対する知識理解において大きな成果を得ることができました。

● 8月 7 日（火）中教研養護部会夏季研修会

（工業技術センター）

午前中は、「性の多様性の理解と支援－養護教諭としてできること－」と題して、鳴門教育大学教授の葛西真記子先生の講演がありました。性は、①体の性②心の性③表現する性④好きになる性の 4 つの要素で考えることが基本になります。中学校の保健室では、性に関する掲示物や本を置くことにより、「養護教諭に相談できるのではないか」と気付く生徒がいるかもしれないので、生徒が相談しやすい環境作りが必要であるということでした。

午後は、「平成 29 年度健康教育指導者養成研修」を受講した鳴門中学校の清水宏子先生より伝達講習がありました。その後、日本赤十字徳島県支部の先生方による心肺蘇生法の実習を中心にした研修を行いました。

● 8月 17 日（金）中教研理事会（工業技術センター）

夏季養護教諭研究大会、中教研夏季研修会、総体救護の反省、執務上の問題点や改善について協議しました。午後からは小中合同で養護教諭の職務について協議し、県への要望事項をまとめました。

● 12月 17 日（月）中教研理事会（アスティとくしま）

総体救護のまとめ、要望事項の確認、実践事例集の作成等について協議を行いました。

● 2月 22 日（金）中教研理事会（工業技術センター）

本年度の反省と 31 年度の計画についての協議と実践事例集の製本、配付を行いました。

会員の皆様のご支援とご協力、ご指導くださいました県教育委員会の先生方、部会長の横田勝先生をはじめ郡市係校長先生に心からお礼申し上げます。